

2024 年度 活動計画

1. 技術開発事業（開発委員会）

（1）IFC2CEDXM アプリ開発仕様書 Ver3.0」の開発

標準的な壁情報の変換仕様は固まってきており、現在、原案をまとめている。2024 年度は、開発委員会を開催し、最終稿を仕上げる。

（2）一般社団法人日本 CLT 協会内において DXWG へ参画（5 カ年計画）

昨年度からスタートした一般社団法人日本 CLT 協会内の新たなワーキング（主査：当評議会 森開発委員長）では、意匠、構造、製造、加工、施工間の木材建築データ連携、各要素の属性定義の開発及び付随する案件に関わる調査・開発を進めている。

今年度は、2 パターン程度の標準フローを作成し、設計段階からプレカット、施工段階までの必要となる項目をできるだけ抽出した上で、より連携がよくなる方法を突きつめていく予定であり、ワーキングの進捗は随時報告していく。

（3）外部委員会活動

①（公財）日本住宅・木材技術センター（林野庁委託事業）

当初の目的であるプロパティ検討は、昨年度の急な方針転換でなくなったが、本年度も依頼があれば参加予定である。

②国土交通省・BIM 活用推進協議会情報基盤整備部会

本年度も参加し、BIM によるデータ連携の動向を注視する。

2. 情報提供事業

(1) 木造住宅の構造性能評価化に向けたスタンダードモデル提起のための調査研究（新規）

建築基準法の四号特例の縮小化、2025年問題、能登半島地震による被災など、わが国の木造住宅の生産体制にとって大きな変革に迫られている。

当評議会では、木造住宅の構造性能評価化のための情報一元化に資する共通ファイルフォーマットとして CEDXM をベースに、その役割をより充実し、評価化へむけたスタンダードモデルを提起するための作業に取り組む。

本事業遂行にあたっては、以下によってアプローチする。

①実態ヒアリング調査

一元化の評価手法化においては、基本となるデータ一元化がどのようにして可能となるのか、そのデータ生成と活用のデータサービスを担うプレカット工場に、構造に関するデータを中心に、その活用を期待するプレカット工場の機能を把握するためのヒアリングを行う。

ヒアリングに当たっては、構造計算を基礎まで含めて計算サービスを行っているプレカット工場、旧四号特例での壁量計算程度のサービスを行っているプレカット工場の付加価値化戦略として仕様評価から性能評価への統合化サービスの展開意向などを調査する。

②実態アンケート調査

①の実態ヒアリング調査によって得られた成果を基に、全国のプレカット工場に対してデータに関するアンケート調査を行う。

③パネルディスカッションの開催

上記①②の成果を基に、パネルディスカッションを開催する。これらによって、構造性能評価化に向けたスタンダードモデルのムーブメントを作り出す。

④ワーキングの設置

上記①～③を進めるため、ワーキングを設け、より具体的な計画を立てて進めていく。

(2) CEDXM ファイル運用事例の配信（新規）

四号特例縮小により確認申請時に必要な図書として構造関係規定等や省エネ関連の図書の添付が必要となる。仕様規定の範囲で安全を確認する場合には図書の添付を省略することができるが、省略できるからといって作成しなくてよいというわけではない。

この図書のうち、伏図に関しては工務店やハウスメーカーで作成することは少なく、プレカット工場が作成しているのが実情となっており、工務店、ハウスメーカーにおいてはプレカット工場が作成した構造図を基に申請用の図面を作成するという業務が発生する。

このプレカット工場が作成した図面をトレースするという作業は、プレカット CAD からの CEDXM

連携をして各 CAD へ取り込むことで大幅に合理化することが可能であるが、現状ではそれほど活用されていない。

そこで実際に会員各社の CAD ソフト上で、プレカット CAD から出力した CEDXM を取り込んでから提出できる図面が完成するまでどのような作業が必要かを録画し、それを配信することで、CEDXM を使うことの利便性を業界へアピールする。

会員各社に作成いただいた動画はシーデクセマ評議会が主宰するオンラインセミナーとして配信し、以降は加盟各社の方の了承をいただいた上で当評議会のホームページ上で公開していく。

- ・動画の作成（会員別に作成）
- ・オンラインセミナーの開催
- ・会員によるメルマガ配信

（３）各社の CEDXM 連携状況の実態調査（継続）

すでに、プレカット CAD、意匠 CAD、構造 CAD のメーカー各社を対象とした CEDXM のチェック項目についての対応状況について調査を行っているが、垂れ壁・腰壁などの連携の改善を図るため、再現状況の調査・検証を行い、CAD メーカー各社へアプリの改善を促す。

（４）連携実態調査の結果の各社マニュアル作成（継続）

アプリを改良しない範囲で入力間違いを防ぐための各社マニュアルは既に作成し公開しているが、データ連携をより意識した箇所を詳細にまとめ、CEDXM 出力の注意点を洗い出すための詳細マニュアル（またはチェックシート）を作成する。

（５）CEDXM 入出力可能プレカット工場掲載数の拡充（継続）

当評議会のホームページに公開されている CEDXM 入出力可能プレカット工場の掲載数を拡充するため、各プレカット工場へ掲載・情報提供依頼を進めていく。

（６）評議会ホームページの更新（継続）

ホームページ内にある会員の掲載情報の更新を行う。また、情報を検索しやすくするための更新を行っていく。

（７）耐震性能見える化協会との連携

耐震性能見える化協会（wallstat）の普及推進と拡充イベント等への支援を行う。

3. その他

(1) 総会・フォーラムの開催

日時：2024年6月12日（水）14：00より

会場：ハイブリッド方式（A P東京八重洲 Xルーム／zoom 利用）

プログラム：14：00～14：30 2024年度通常総会

14：45～17：00 フォーラム「拡がるCEDXM活用」

討議・ディスカッション「CEDXM連携のこれから」

(2) 理事会の開催

事業の進捗状況により年4～5回の開催を予定する。

(3) 情報発信

評議会ホームページ、メール等により随時会員、一般への情報発信を行う。また、メディアからの情報提供も随時行っていく。

(4) 評議会ロゴのリニューアル

現在のロゴは、評議会を任意団体として立ち上げた時（2003年）に作成したものである。2008年からは特定非営利活動法人としてその活動を広げてきたが、会員の業態の多様化、CEDXMの新たなニーズに向け、また今後の評議会の更なる発展のため、特定非営利活動法人シーデクセマ評議会設立20周年に向けた事業の一つとして、ロゴを一新する。